

今回は 第75回「資本論を読む会」

DAS KAPITAL

☆5月26日（月曜日）午後6時30分—Zoomで開催

第3章「商品資本の循環」[岩波文庫(四)p128]。



皆さんの5月連休はいかがでしたか。前回の後半レポーターのSugiさんから「あさひかわ9条の会主催の講演会に参加しました。参加者の中でわたしの年代が若い方とは…。現役のみなさんは連休を謳歌していると合点した次第です。」（要約）とメールが来ました。

さて先月4月28日の「資本論を読む会」の参加者は10名でした。第2章「生産資本の循環」の第2節「蓄積および拡大された規模における再生産」と第3節「貨幣蓄積」、第4

節「予備金」を終わらせました。第2節は拡大再生産についての記述で、相変わらずの定式が出てきます。「 $P \cdots W' - G' - W' (A, P_m) \cdots P'$ 」と、 P が P' （ダッシュ）になりますが、余剰価値が蓄積されて新しい循環に入る…と言うことですね。正確に言うと「剰余価値が生産されたということではなく、生産された剰余価値が資本化され、したがって資本が蓄積されたということ」（p119）だそうです。

その後の第3節と第4節は定式が出てこなかったせいか、余りしつこい議論にはなりませんでした。少し時間を余した格好になったので、「第3章 商品資本の循環」を読むだけにしました。

がーッ！ この新章の一般定式は「 $W' - G' - W \cdots P \cdots W'$ 」となるそうです。”読んだだけ”のせいもありますが、「一体、何を言っているのか全然分からん！」との泣き声も出され、「もう少しの辛抱」と頑張ることにしました。

今回は「第3章 商品資本の循環」のレポートと討論に入りますが、レポーターは引き続きSugiさんです。よろしくお願いいたします。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-anak&suigi

第2節 蓄積および拡大された規模における再生産

生産資本の循環（拡大再生産）の定式は以下のようになる。

$$P \cdots W' - G' - W' \begin{matrix} A \\ P_m \end{matrix} \cdots P' \quad \cdots \text{その第二の循環を開始する。}$$

◎資本の増大には資本の価値構成の変化が結びついていて、この変化の進行とともに P_m の価値は増大するが、 A の価値は、絶えず相対的に減少し、しばしば絶対的にも減少するからである。

第3節 貨幣蓄積

拡大再生産の場合、資本が生む剰余価値は単純再生産の場合のように全部消費されない。

「現実には」一部分が所得として消費され、一部分は資本として蓄積される。

第4節 予備金

剰余価値が存在する形態である退蔵貨幣は、貨幣蓄積基金であり、資本蓄積にと もなう一時的なしかし必然的な形態であることをこれまで考察してきた。

○貨幣蓄積基金は循環の攪乱を調整するための予備金として役立つ